

「リフレッシュ瀬戸内in三原」

双鷺洲

鷺浦コミュニティセンターだより



向田海岸へ集合

7月13(日)向田海水浴場
午前10時～11時半
五藤市長はじめ・海上保安庁、港湾関係者、小中学生、海洋少年団、三菱研修生、鷺浦町民等々約250名が海岸掃除に汗を流しました。
今年では集合後、三地区それぞれの海岸へ分かれて掃除しました。毎年続けてこの活動を通して、海は確実にきれいになってきています。



貝の放流

その後、須ノ上海岸で鷺浦小学生により貝の放流を行った。バケツに分けられた貝を手で掴んで、決められた柵(10m四角)を中心に周辺にもバラマいた。

楽しそうにばらまく姿は、昔どおりの島の子である。ただ、残念ながら経験不足と、引き潮だったので、放流した貝のかなりを死滅させてしまいました。誠に残念。次回は考えます。

AED講習 2カ所

・6月26日(木)鷺浦待合室設置・木区役員20名、操作の講習を受ける。待合室の中なので、夜間は三区長宅にある鍵を使用すること。
・7月17日(木)鷺浦コミュニティセンター設置・向田区役員20名講習を受ける。いずれにしても、心肺停止ではすぐに、胸部圧迫(一分間100回)と2回の人口呼吸をその後、自動の音声に従ってAEDを実施する。

かな教室

西原美智子

この春より新しい仲間がふえて喜んでいます。私は数年前より六十の手習いで始め、皆さんと一緒に楽しんでいます。



町内会行事予定 (二ヶ月)

- 8/6(水) やつさ練習
- 9(土) やつさ踊り出場
- 12(水) トライ冊子配布予定
- 13(木) 盆行事
- 14(金) 三地区盆踊り大会
- 30(土) 前日準備
- 31(日) 第19回トリアスロン大会
- 9/14(日) 向田・須ノ上敬老会
- 21(日) 佐木敬老会
- 26(金) 第3回トリアス実行委員会
- 10/5(日) 向田 若宮祭
- 12(日) 第4回三原市民体育大会
- 19(日) 須ノ上 秋の大祭
- 26(日) 向田 秋の大祭

俳句・山柳・短歌

- 妻があり俳句がありて八十路かな
- 梅雨あけの 満月池に 美しく
- 石槌の ふもとで出逢う山ほうし
- お地藏さん よりそい集う夏の宵
- やれ怖し 異常ばかりだ天も地も
- 祖父拓き 父はいも植え俺ミカン
- 子どもは町で サラリーマンだ
- 精出して みかん作れど 猪奴
- よだれ垂らして 食い逃げトンズ
- 税負担これでもいいのかやりきれぬ
- これがなければ 細々行ける
- 偽絶えずご飯にウナギよく食べた
- しもった事ね 後の祭りだ

第2回実行委員会

7月25(金)約50名の実行委員により、大会前、最後の実行委員会が行われた。参加選手の手続き進捗状況、大会を支える役員・ボランティアの確認・係別準備状況など多くの協議を行った。定員350名のところ、個人355名+18チーム計373名の競技者と成る予定である。定員オーバーのため、急遽駐輪場の拡張を行うこととした。

島外からの、ボランティアも昨年より3倍位多くなる予定です。さて、大会も早一ヶ月前となりましたが、今年も、猛暑が予想されます。・・・同封の書類は私の熱中症の診断書のコピーです。結局私は一週間の入院と一週間の自宅療養と成りました。来年はこういう人がでないように・・・一ヶ月入院した人もいました。大会運営は大変厳しいですね。



お地藏さん 7/19(土)

今年も、夏のお祭り、お地藏さんに三地区から、たくさんの方々が集まり、飲んで食べて笑って、楽しくコミュニケーションができました。カラオケも飛び入りOKでした。世話人さんご苦労様でした。



架橋 県道草刈り

40名

朝五時半、草刈り隊集合!!、眠い目をこすりこすり、朝飯を食べて、道具を準備して、みなよく集合しました。早い内なら、体も動く。9時まではよかったです、それが10時・11時になると、だんだん息切れし、へたり込む。熱中症にならないように、水の補給はみな気をつけていたようだ。12時まで頑張った班もいたようだ、彼らは若い! 今年から、草刈り面も半分は値切られ、手間賃も少ないのだが、お陰で県道側面はきれいになった。ご苦労様。インドネシア研修生ありがと。

定住促進

4月に「すこぶる広島」、7月に「田舎暮らし」という雑誌に定住促進の適地として「佐木島」が掲載されました。(全国版)そのため空き家の引き合いが、現在数件、市の観光課にきています。島の人口流入策のために是非とも空き家の提供をお願いいたします。連絡先、雑誌の閲覧はコミュニティセンターへ (奥野)



ヤッサ練習 7/23・31・8/6



三原で鷺浦郷土写真展

「さぎしま散策」と題した山下博巳先生の写真展が三原サンシープラザ四階の「ふれあい広場」にて、七月一日より開催されています。風光明媚な鷺島を謳った梁川星巖の漢詩「双鷺洲」の解釈文をはじめ、割石地蔵の大きな写真と共に地蔵尊の刻文の意味の解説を紹介されています。地域の神社・古跡・内海に囲まれた穏やかな風景など大きなパネルを含め、六十一枚の額が展示されています。町内のある人は「知らない事がいっぱいあった」と感心しきり、三原の人は「美しい風景だけでなく歴史の長い島、一度訪れてみたい」と・・・。

長年郷土史に関わってこられた先生が先人の足跡に光を・・・学んで継承をの思いが写真を通して伝わってきます。三原にお出かけの際はちよつとちよつとみませんか
7月1日～9月26日まで
吉田千津子

